

9月17日午前の部、「ソフト、IT投資と生産性」セッション（会場 6204）

銀行業におけるソフトウェア資本の最適投資 － 日経 NEEDS 銀行財務データを用いたパネルデータ分析 －

村上裕太郎 (Yutaro Murakami)

大阪大学大学院経済学研究科*

E-mail: murakamiyutaro@srv.econ.osaka-u.ac.jp

竹村敏彦 (Toshihiko Takemura)

関西大学ソシオネットワーク戦略研究センター†

E-mail: takemura@rcss.kansai-u.ac.jp

<http://www.rcss.kansai-u.ac.jp/~takemura/>

September, 2005

概要

本稿では、日経 NEEDS 銀行財務データを用いて、まず 1999 年度から 2003 年度までの日本の銀行業における（従業員数一人当たりの）ソフトウェア資本の生産性についてパネルデータ分析を行い、次に、その推計結果を用いて、ソフトウェア資本の最適投資比率に関する分析を行っている。

本稿では以下の 3 点についてわかった。まず、分析期間において、銀行の生産物に対するソフトウェア資本の生産性は正の値をとった。この期間では、ソローの意味での生産性パラドックスは観測されないといえる。次に、ソフトウェア資本の生産性は、貸出債権に占める不良債権の比率が大きい銀行ほどソフトウェア資本の生産性は小さくなっていることがわかった。最後に、最適投資比率を計算したところ、地方銀行はソフトウェア資本について過小投資、都市銀行はソフトウェア資本について過剰投資を行っている傾向があることがわかった。このことは、日本の都市銀行が相対的に限界生産力が低い資本に投資を行っているという意味で、「IT 投資に関する都市銀行のパラドックス」が存在するといえる。

KEYWORDS: Software Investment, Panel Data Analysis, Bank, Optimal Investment Ratio, Productivity

JEL CLASSIFICATION: C23, D21, D24, M41

*博士後期課程、〒 560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-7 大阪大学大学院経済学研究科

†ポストドクトラルフェロー、〒 564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号 関西大学経済・政治研究所ソシオネットワーク戦略研究センター